（二十七日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日翌日　第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（一行五號指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼諾輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話[illegible]

潮聲會　第九集

第一、課題吟　互撰

一、殘暑

茄子まだ一艶つきし殘暑かな　一夢
耕しや殘る暑さの草いきれ　松堂
白壁の夕日射反す殘暑かな　江亭
雜草の上吹く風や秋暑し　中納言
殘る蚊に責めらるゝ夜の暑さかな　晩霞
秋暑し山を下りし悔いを持つ　何鳴
秋暑し門の大樹の蝉の聲　孤舟
刈り伏せし草のいきれや秋暑し　天仙
豫後の身に一しほつらき殘暑かな　瀧堂
いらいらと夕陽に殘るあつさかな　松堂
雨氣廻る沼藻いきれや秋あつし　天仙
植込に猫の寐て居る殘しよかな　一夢

或日の海濱

淡路にて　長岡生

熱い…熱い…熱い！

白砂に焼きつく太陽の反射がすべての感覺を痲痺してゐた。油を流したやうな全く月の死んでゐる海面には二つのヨットの影が赤い旗を眠つてゐた。脫衣場の渚も水中にも色彩々の水泳着が躍り狂つてゐる

「熱い！」

「全く——」

「燒けてとろけてアはそうだ……」

ロイド眼鏡・長髮の青白い青年が脫衣場の蔭で肥つた水泳着の髯むしや男にさゝやいてゐる。波のくねつてゐる渚にはパラソルの群が花辨のやうにたはむれてゐる。腰までの深さに漂つてゐる眞赤な水泳着がわめく渚のパラソルの影から眞白な肉体が水の中にとび込む子供の黄色い聲がその間を縫い乍らそこら一面に這ひ廻つてゐる。

すべてはたゞ雜然としてあらゆる色彩が錯綜してゐた。

「たい！あの肉体美を見てみい迚も素敵だ！」

B青年が細くした目もとに薄笑ひをたるませながらでも脚丈けは素晴しい情熱的に傍のAをかへり見つゝとび込み臺の上にすつくと立つて海の方を向いてゐる女を指差してさゝやいた

「素晴しい代物だ——」

「藝術家が見たら夢にでも見さうだ！」

「うむ——あのリズミカルな曲線つたら……」

「正に古代ギリシャの彫刻品だ！」

「近代クレオパトラ」あゝ我心熱く燃ねて來たりけりか？」

「あはツは……」

「あはツは……」

その時である。その聲の大きさにかきた偶然のためかこの二人の居る渚を向いた女、

「チェツ！」

「チェツ！」

いひ合はしたやうにつぶやいた二人

「胸糞惡くならあ——」

「だんごの出來そこなひ！」

「然しそれでも女だせ——」

「女と聞いてあきれるあ——」

さつきの言葉が惜しまれる

それを聞いてゐた男も女も子供も一度に吹き出した腹を抱へて躍つてゐる者もある。

「はゝゝゝ——」

「あはツ　あつは——」

その不思議な笑ひを知つてか知らずにかとび込み臺の女は兩手を高くかざしてくツと身だを廻すと美しい肉体が孤を描いた。二秒の後水の中へさかさまにとび込んだ。笑の聲を聞き乍ら……だが太陽は相變す殺人的光線を渚の波に投げつけてゐた。

詩一ツ

鎌田　狂人

涯しない空よ
そして海よ
た前途の様に
自分も—今
すつかり途方に
暮れてしまつたよ

◇

空に雲がある
海に波がある—故！
そこに丈でも
た前途は…何が自分を
意識する事に
躊躇しながらう
見てくれ—俺を
俺は—今
あまり廣すぎる希望に
すつかり途方に
暮いて仕舞つたよ

短歌

雜詠

一握の
砂を散らせしその如く
想ひ亂るゝ日よ早や暮れよ

さわがしさ
愁への西に勝る故
宵月斯くははや消ゆるや

仄赤く
薄紅なして黒雲を
突破り出る月の自然はね

植かへし
一鉢の草花日出草に
淡ゆき望みかけて見つれど

思ふにや
このひたたしの風の音を
忍秋のむせびと吾は淋しも

戀し心

あのゝきの
愁へを密めて待てど待てど
その幻の砂にのみ浮き

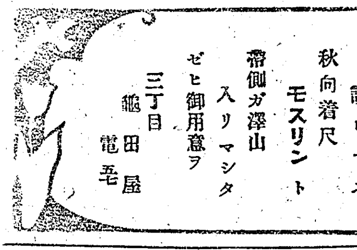
ペン先の
光りを眠と凝視めつゝ
今日の苦しき想へても見ん

ピリピリと
紙ひき裂きていさゝかは
滿たぬ想への夢を醒ませり

明日の吉凶

舊暦八月二十六日
新暦九月二十八日

▲一白　手足纏ひを生じ無駄に時刻を費すこと多し▲二黒　朝の内は手間どると追々馴れて捗し▲三碧　身を守ること堅實なれば發展の域に入るべし▲四緑　氣を和げ長者を敬すればその引立を受く▲五黄　階段を昇るが如く秩序正しく徐々進むべし▲六白　目下の爲に失敗あるも後日返り咲くべし▲七赤　身体さへ健全なれば他に憂ふことなき日▲八白　進むにも退くも氣を落付け注意に注意せよ▲九紫　常業には吉なれど慣れぬ事には凶と知るべし



心地良キ秋ガ訪レマス
秋向着尺
モスリント
帶側ガ澤山入リマシタ
ゼヒ御用意ヲ
三丁目　龜田屋　電[illegible]

小説　死を超ゆる者

(98)　三上於菟吉作　布施平八郎畫

邂逅（五）

このとき和子は泣き出しさうな眼をちつととき子に向けた。而して互に語るものと聞くものとの惱みは心をえぐるが如く苦しみの聲と耳とであつた。

村越と妙子は無言のまゝ横を向いた

和子は語りつゞけた

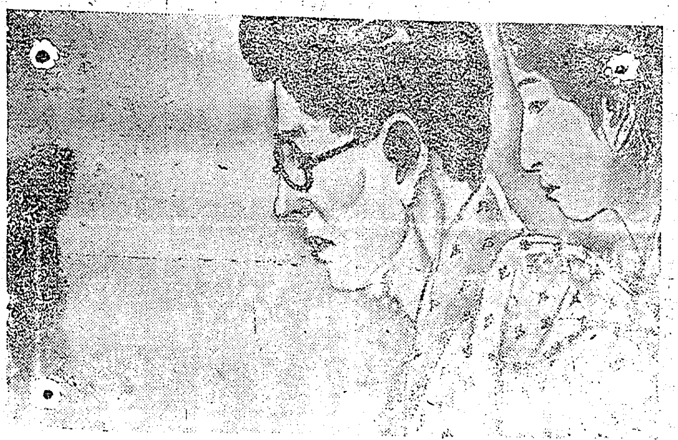
「私達は女で、皆んな弱いのです……私達は自分の力でどうすることも出來ない運命の力を、めいめいによく知つて居ますわ……たゞへあなたがあの後で……勇はあゝ云ふ身の上になつて直ぐ後で間家へお嫁ぎになつたとしても私達はそのことを何とも思ひはしません私達には、ひどい勢ひで押寄せて來る外の力を防ぐ力がないんですもの」

さう言つて居る間に、相手を慰め、力付けようとして居た和子の彼の女自らの瞼から熱いものが滴つた。それは思ひ遣や感動から許りでなく、自分自身の不幸な結婚生活を思ひ出したからであつたに違ひない、妙子は默つて自分より年上の彼女の涙を眺めて居た彼の女はその娘心に戀人を遠くへ失つて了つた自分も、この二人に比ぶればまだしも幾らか幸福だと思ふのであつた

彼女自身は現在勇に對する憂鬱、思慕と不安とに胸を暗くされて居るとは言へ始終和子が受て居るやうな惱ましい家族的壓迫や、おそらくそのためにとき子をして死を決せしめたであらう穢れた屈辱をば味はつて居ないのであつた。この座の三人の女性の中、前途に光を見て居るのは彼の女みであるやうな氣がした。むの世を棄てたやうな青年と自分との關係が行末どのやうに變化するかといふことをはつきりと豫想することは出來なかつたが、どの道、彼の女は彼を慰め得るであらう。助け得るであらう。親しみ得るであらう……愛されずとも露はして見せることは出來るであらう……けれども可哀想なのはこの女だと妙子は思つた、この女は、この世で二度とあの方に逢へるだらうか？たとへ逢つたとしても……

ほんとうに、遂に一番強い不幸を忍ばなければならなかつたのはとき子であつた。彼の女は彼の女の弱さのために戀人を牢獄に突入れて、そして自分は富豪の戀妻となつて了つた。その間の遣る瀬ない事情について勇や周圍の人がどれほど理解を持ち、勇自身があの思遣りある心から一切を許して呉て居るにしろ、兎に角彼女自らの愛の弱さで穢して了つた

「私はやつぱり死んだ方が」と彼女は放心したものゝやうに呟いた。村越は聞きとがめて、わざと厳しく言つた——



「僕達があなたを此の世へ呼び戻したのです。僕達の前でさういふことを言ふ權利はないのです。若しあなたが強いで勝手に僕の權利を無になさるつもりならば又僕には僕としての相當な手段がありますよ」

と村越の言は鋭く、凄じく突然りとき子に向つて矢を放つた

而して彼は寧ろ高壓的に自己の權利を主張せんとするやうな態度でいとも嚴格に言ひ放つた。

廣告

評判ノよい專門藥
心臓圓。一圓　二圓　三圓
平五　山野邊藥局

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

素晴しい好評!!
婦人世界特選（圖案ハ全國一流ノ大家）壹萬五千圓大懸賞付（空クヂナシ）
足利本銘仙　近代調銘仙大賣出し
婦女界推奬（名作カラ暗示ヲ得タ）大懸賞々品付）空クヂナシ）
八王子高級　文藝銘仙大賣出し
特長　一、何レモ最高級ノ糸最高級ノ染料　生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デス
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ秋流行ノ先驅ヲナス逸品デス
一、柄ガ良ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ廉價ナ上ニ興味深ク大懸賞景品付デス
平町カジ町
吉田屋呉服店　電壹貳壹番
詳細ハ店内並ニ婦女界婦人世界十月號ニ發表シテ御座イマス

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番

ヒゲタ醤油
宮内省御用達
銚子醤油株式會社

特約店　平町田町
廣瀬支店
電話五四番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　㊇釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番・一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門　日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科　日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
醤油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

內臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

內臓外科
骨關節外科
整形外科
產科
婦人科
專門　藤本順
院長　木村寅次郎
外科　婦人科
平町新川町
木村病院
電話一六四番

ホシ胃腸藥
星製藥株式會社　東京・大阪
健康第一

口に緊縮を唱へながら 縣費を浪費する小柳知事

新舞子と勿來の關に風光を賞で 悠然探勝氣分に潜る

小柳本縣知事は別項の如く巡視の觸れ込みで二十五日四倉町に至り二十六日植田を經て平町に一泊の上今二十七日朝歸廳した、緊縮を一枚看板とする濱口內閣の御用知事として口に緊縮を唱へ既決の町村豫算に對し一割天引きを強要し暴政をほしいまゝにしてゐる小柳知事の所謂緊縮なるものは單に縣民を欺く一片の口辭に過ぎずして

實は放慢

惰爹然たる縣民の血と汗とを以てせる縣費を浪費して恥ちざる內面の醜狀が暴露した、小柳知事が前後三ケ日に亘る巡視の跡を見るに二十六日四倉町海氣館に悠々旅情を慰めた上自動車を以て仁井田海岸新舞子の風光を賞で天晴れ良二千石然たる態度物ごしで送迎の爲め參向せる御用黨の縣議や有志に護られ乍ら長驅して勿來の關に至り「吹く風の」古歌を口ずさび乍ら有閑連さい倘ほ試み能はざる探勝氣分にひたり午後內鄕村磐城炭礦を視察の上二十六日夜平町住吉屋本店に投宿し廿七日早朝平第一小學校高等科生徒を講堂に集め

名和長年

か毛利元成かの歷史の講話を試みて其の儘歸廳したのであるが知事今回此の巡視の後を見るとき現下の縣政上果して如何程の實蹟と收獲とを見る事が出來たであらうかを疑ふと共に口に緊縮を唱へ乍ら事實は縣費を浪費して憚らざる此の暴擧に對し地方民は口を極めて呪嗟の聲を放つてゐる

土地さへ賣れゝば 役場を新築

豫算案とは別に 緊急に迫られる廳舍政策

平町當局の方針

平町では實行豫算として二割一分を緊縮しそのために役場廳舍新築が無期延期、なるものと豫想されてゐたが廳舍新築は緊急を要する問題であり平町にとつては多年の懸案なので緊縮はしてもこの計劃、進めて居るこの計劃は町有地を賣却することが財源の捻出の唯一の方法であつて南町のある町有地一千坪現役場敷地三百六十坪、水道課敷地四百九十坪等を時價に見積もると約八萬圓見當になり坪三十圓內外の土地を新に敷地として買收するとしても右八萬圓中から四萬五千圓からの剩餘金が生れ此四萬五千圓を建築費に當ることになれば緊縮豫算に觸れずに役場の新築が實現することになるべく豫算面からは本年度に計上した役場新築費を削除したが豫算案とは別に大地さい賣れゝば結局平町の役場は新築が實現するものとみられてゐる

貞操觀念の衰亡（三）

城山隱士　大和田豊吉

時に年齡木村重成は、何才であつたか曰く當年取つて僅に二十一才但二十三才との異說あるが是は僞なりとの歷史家の駁論もれば當年將に二十一才僅に今日にては徴兵適齡年齡に達したばかりの青年美男子である、流石に大阪方の軍人には英雄雲の如く多く豪傑煙の如く集れる然ゝ劍術や柔道や槍術は惡か忍術道など跋扈したる世の中に、僅に丁度に達したるだけの木村重成は一方の旗頭であるに之に連れ添ふ夫人眞野氏は亦夫をはげますんが爲めに十八才を一期としてかんばしき最後を遂げ其名聲を千載の後に傳へたるは實に揃いも揃つたふさはしき戰國時代の豪傑夫妻であると謂はねばならぬ

我が邦には神代伊弉諾尊伊弉冊尊が夫婦生殖の道を始め給へしより今日に至るまで既に三千年其間夫婦の道否夫婦の間に何の變りあるにあらず然るに古は不義とて夫婦の道を亂る者は一刀兩斷の上に打ち切りて其筋に其旨屆け出でさへすれば宜かつたものが今日は夫の有る身で他の男に走り又子供を置き去りにしてもだし男を持ち其他三角關係の四角關係を結び其と戀愛至上主義たの戀愛は神聖なりなどゝ叫ぶ夫で宜しいものやらどうやら吾人は當に叫ばんと欲す曰く夫婦の關係は當に故寺內毅雄氏夫婦の如くならん事をと

曾て元大審院長法學博士横田秀雄氏は其大審院長たりし時判決を下して曰く有夫の婦に貞操觀念の必要あれば有婦の夫にも貞操觀念の必要あり夫婦相互に相助け其救ふの義務ありと玆に於てか我が邦未だ刑法は改正せざるも開闢以來有夫姦罪のみありて有婦姦罪なきを救濟する事が出來たのである、是ある哉賢に名判官なりと稱せざるを得ないのである、要するに貞操の嚴格なるべきは夫婦相互の義務なれば

譬へば其夫の死亡したる場合に其婦は貞女兩夫に見えずの觀念にて故寺內アヤ子氏の如くなるが、若しくは嚴然たる寡婦たらん事を望むのである。

（終り）

小柳知事に呈す

不良教員の掃蕩に就て

吉田清文

吾輩は二十余年間石城の天地に學び現在は帝郡の一隅に居るものであるが未だ且て故鄕の新聞に一日でも放れた事はない、で自然紙上に表はれ事のみは隅から隅まで見てゐる次第である其處で過般紙上に於て「不良教員一掃の小柳知事の抱負」と云ふ三段見出しを讀んだ時、小生は近來にない喜びを感じたなんとなれば本縣の小學校のみの教員界を毒する不良教員のあまりにも多い事を知つて、ゐるから而しその不良教員中の主は准教員と稱するもので教員のサラリーに依つて生活をして行くのに非ずして高等學校等の試験の不結果から一時小遣取りながら勉強をしやうと云ふ輩が多く從つて料理屋、カフヱー等の出入は當然の如く心得てゐるやうに思はれる。

又教室にあつては富裕なる家庭の兒童を手撫づけて貧困者の兒童は白眼視すると云ふやうに、社會の風にもあてらぬ無心な子供に階級意識を植つけるに務てゐる？と見られてるも仕方がないと思ふ、更に一方正教員諸君を見るに之は行き方が准教員と全く異つてゐるやうである即ち、失職は直接自己は勿論妻子に迄影響する事となるので恩金でもつくまでは首と胴は放れぬやうにとの考へから上教員校長の御氣嫌は勿論甚だしきに至つては縣視學とか稱するお役人の自宅を訪問する教員もあると言ふ噂もある。

右の如きは市町の不良教員一部の例に過ぎぬが、郡村小學校にあつては更に甚だしいものがある、新任校長と村長、村會議員青年團との間に絶えず暗流が釀されて遂には教育者とは名のみとなり、政黨屋の走狗となつてゐるものさいある模樣である、斯くの如き不良教員をそのまゝにして置く時はやがては縣教育界を極度に紊亂腐敗させ收拾すべからざることになるは火を見るよりあきらかである。此點を非常に憂慮した小柳知事は情實關係を一掃して縣教育の新生面を開くにつとむると云ふが、果して出來得るだらうか？本縣教育界の委微沈滯を憂ふるもの筆者のみではあるまい。此際小柳縣知事閣下は眞に嚴正公平なる立場にあつて勇猛邁進せられん事を望んで筆をおくものである

錦村助役決定

石城郡錦村では永らく缺員であつた助役の銓衡中であつたが廿五日村會を開いた結果村議田邊保晃氏と決した

惱みの種は平局の大小便

伏見町長色をなして驚く

平町空前絶後の珍事件

平郵便局の新築工事は既に大体の骨建てを了しいよ〳〵外部工事に着手し來年三月中に竣工せしめる豫定で工事を急ぎつゝあるが此の平局舍の新築に伴ひ平町役場と土木委員會とが「大小便」の仕末で頭を惱ます騷ぎが持ち上つた、問題は新築の平郵便局では大小便所に特別な化學的設備を施し大小便を淨化して清淨な液体となしこれを南町裏の下水に流し込む裝置にしたいから了解して貰ひたいと田村郵局長より二十五日正式に伏見平町長まで申出て來たので是れは考へものだと町役場では二十六日土木委員會に諮る處あつたのに對し土木委員會では右大小便の淨化水が新川に流すなら異議はないが南町裏の下水は附近一帶の水田に灌漑する用水であるから之れが爲め萬一稻作物に害があつては平町土木委員會の科學的智識の無さ加減を笑はれても困るし一應淨化水そのものの實体を調査研究の上諾否を決することゝなつたが藪尿の仕末に土木委員會を煩はしたのは平町初めての事として話題の中心となつてゐる

漁場を荒され 漁民憤怒

江名町の騷ぎ

石城郡江名町小舟乘組合は廿四日午前十時より同町字折戸吉田國太郎方に總會を開き最近流行の機船灘曳操船に專用漁場を荒され何せよ小舟の悲しさ對抗する術も出來ず袖手傍觀の有樣であり小舟營業者は全く不漁續きの餘儀なき窮地に立つてゐるのでいよ〳〵死活に關する重大問題として善後策を講ずるに至つたもので交涉委員數名をあげ灘曳組合に交涉する事となつた而

金庫事件解決

開け料金五圓也で

平署のお裁き

既報―平町仲町山十製糸[illegible]操所の金庫が開かなくなつたので同町本町一丁目關彰金庫店に開扉方を依頼したところ同店から二名の職工が來て開扉したがこの料金十三圓は高いと言つたことから職工等は「では元通りにする」とて金庫を元のやうに開かなくしたので山十側では解決方を平署人事相談所に願ひ出たことは既報の通りだが平署では二十五日午前十一時双方を呼んで仲裁した、そのときの話によると關彰金庫店では山十からの依頼によりわざ〳〵他から職人を頼んで世話したことで親切が無になつたばかりか誤り傳へられて店の迷惑になつたと言ひ一理あり結極双方讓り合ひ改めて金五圓の料金を以て開扉することになり解決した

町長報酬削減

四倉實行豫算

石城郡四倉町本年度實行豫算は二十五日に編成完了したが之によると當初豫算は五萬九千三百二十九圓にして削減額は一千九百九十七圓に過ぎず主なる削減項目は町長報酬費百八十二圓、備品費四十圓等である

途中より一筆

拜啓小生消防用の爲め東京福島間を往復いたしおり候處來月二日は內宮式奉拜、縣消防組を代表者として參列する事に相成り候三十日內相官邸に於て理事互選會を濟まし三十日に伊勢へ出向の豫定に有之候、不取敢御一報まで　早々

廿六日　福島にて

井上茂作

磐城新聞社御中

拾つた十圓の金に落し主が二人

ごつちが嘘か眞實か

平署の難裁判

石城郡內鄕村御厩字久世原魚行商人島村勘吉(三三)は去る廿六日平町大工町平魚市場前に於て新聞紙に包んだ金十圓(五十錢銀貨廿枚)を拾得し即日平署に屆け出た處がこれと相前後して內鄕村御臺境岩間初太郎(三九)が買に魚市場前で五十錢銀貨二十枚で十圓を遺失しましたと屆出たので平署では該金を初太郎に手渡すことゝなつてゐると一方今度は豊間村大字沼磯魚行商入磯上幸吉(二九)が實は魚市場前で新聞紙に包んで五十錢銀貨で十圓を遺失しましたから拾得者があつたら頂きたい」と同じ樣な屆出があつた一個の拾得物に二人の遺失屆が出た平署ではさて何うしたものかと思案の揚句種々調べて見たが何れの言分も眞實らしく此の金の處分に困り果てたが何れかの一方が虛僞の屆出をしてゐるに相違が無い若し此の兩人とも同じ五十錢銀貨で十圓を紛失した事が事實とすれば他の何人かゞ拾得してゐて之れを橫領したものがなければならない、何れ問題の金は小額でも事が一寸怪しいので明二十八日兩人を呼び出し何れが嘘か眞かの判定をした上金を渡すことゝなつたが近頃の珍聞である

記者募集

中學校三學年修業程度の學力ある眞面目にして身体強健なる青年記者二名を募集す、但し平町在住者に限る(保證人を要す)希望者履歷書持參本人午前中に來社あれ委細面談電話、書信の交涉絶對謝絕

營業部員

年齡二十二歲以上、身体強健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歷書持參本人午前中來社あれ、給料その他委細面談

磐城新聞社

大敗網事件 判決延期

十月二日言渡

小名濱大敗網係爭事件に關し靜岡縣高橋亘氏が小名江名兩漁業組合並に現大敗網元代表者白井傳之氏を相手取つて訴訟中の大敗網賃貸契約確認訴訟は過去三ケ年に亘り數回の公判を開き去る廿日を以て決審し今二十七日午前十時判決言渡しある筈の處裁判所の都合により十月二日に延期されたが判決の結果如何は非常の注目を惹いてゐる

子供を背負ひ 哀れな父

妻の不義に泣

內鄕村磐城炭礦坑夫秋田縣川邊郡戸井田村戸井田一七四長門粂治(三二)は妻に逃げられ置き去られた二歲の子供を手纏ひにしては勞働が出來ないとて鄕里秋田に歸る途中旅費に窮し子供を背負つた氣の毒な姿で二十五日郡山署に願ひ出た

晩生種不良

石城の稻作

[illegible]地方の秋分當日の稻作につき二十六日農事試驗場石城分場から縣に報告あつたが之に依ると二百十日以降の氣溫が著しく低下してゐるため成熟期遲れ早生種は大差ないが晩生種は平年より三日遲れてゐる、本年の氣溫は昨年に比べて四度三分低く降水量は百五十八ミリ多いが秋作に對しては大した打擊はないと

磐新塔

不景氣に緊縮の昨今平町の花柳界を見ると氣の毒なよりむしろ悲慘な位だ、先づ藝妓屋の新田町は緊縮宣傳の効果から歡送迎等の宴會等が殆どなくなつて一流處でさい御茶をひくのが珍しくない有樣、次に鎌田遊廓は盆の直後であり俗に言ふ霜枯れ時ではあるが二十四ノ登樓客人員は僅十九名、娼妓の數が六十名として僅三分の一にも當らない仕末である、田町、鎌田と對抗して常に盛勢を示してゐる南町の飲食店も荒井署長着任後取締が嚴重になつた爲めか今迄の樣に大ビラで客引きも出來ずこれ亦不景氣をコボシ切つてゐる、何れにしても平町の花柳界は不景氣と緊縮に崇られ青息吐息の有樣である。

小柳知事歸廳

石城郡地方巡視の爲め二十五日午後四倉町に一泊した小柳知事は二十六日植田町に至り平に一泊二十七日午前八時五十分平發列車にて歸廳した

緊縮と輸入防遏

純國產品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆樣へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等 復興債券（額面百圓）六十本
二等 蓄音器（三笠號市價七十五圓）百二十本
三等 置時計（八日巻マホガニ 市價三十五圓）三百本
四等 目覺時計（角形市價六圓五十錢）千三百三十本
五等 机上時計（市價二圓廿錢）五萬八千三百本
（期日十一月三十日迄空籤なし）
特約店 大谷時計病院
電話一一九番

內科診療

消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

營業種は 石炭 コークス 玉炭

磐城第一の石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入　壹俵　金六十五錢
◎日本デ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス　壹俵　金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ〇ツノ玉炭
一、玉炭　大箱壹箱　金貳圓
配達バ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ツ 阿部石炭商店
電話二三七番

外科一般（入院隨意）

內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（稲際）
木村外科醫院
電話三〇九

生花教授

池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの